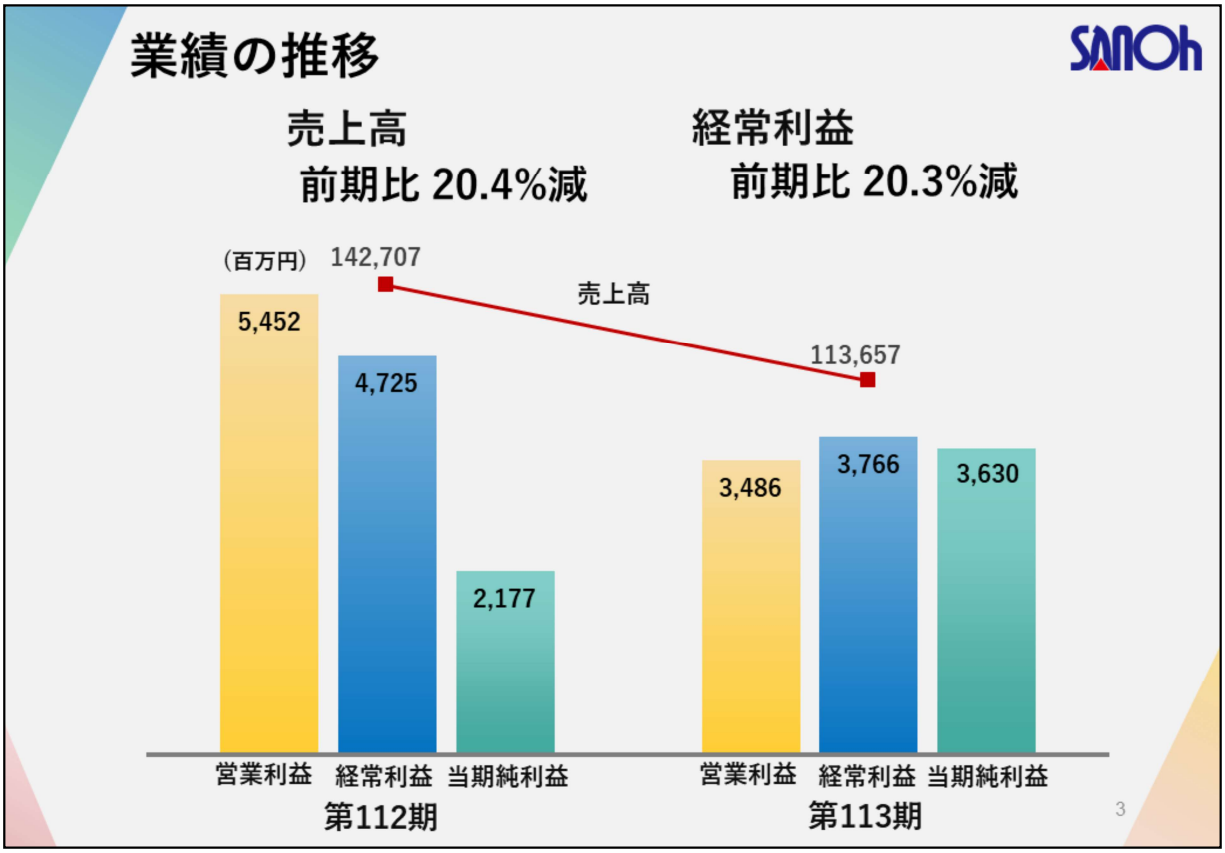

SANOH
第113期
定時株主総会
2021年6月23日(水)
三櫻工業株式会社



報告事項の「第113期　事業報告、連結計算書類および計算書類の内容」につきまして、ご報告いたします。



当期の当社グループの売上高は前期比20.4％減の1,136億５千７百万円、営業利益は前期比36.1％減の34億８千６百万円となりました。

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響による売上減少を受け、前期比では減収および減益となりましたが、2020年７月以降は各地域の売上が回復したことに加え、全社一丸となった構造改革、固定費削減活動により、持ち直すことができました。

経常利益についても、為替差損の減少、雇用調整助成金を計上したことにより、前期比20.3％減ではありますが37億6千6百万円を計上することができました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益や受取保険金の計上もあり、36億3千万円と、前期比で増益となりました。



事業報告のその他の事項、連結および当社単体の計算書類の内容につきましては、招集ご通知17ページから39ページに記載のとおりでございますので、報告を省略させていただきます。



続きまして、対処すべき課題でございますが、5月21日付で公表いたしました中期経営方針の3つの柱について、ご説明いたします。



１つ目の柱は、既存事業の深化です。

世界の自動車市場は、100年に１度と言われる大きな変革に直面しています。

我々の主力であります内燃機関乗用車向け製品の市場は、次の10年間も一定の規模が存続すると想定されますが、コロナ・ショックにより露呈したグローバルサプライチェーンの脆弱性に対し、今まで以上に柔軟な生産体制と、変化に適応するための迅速な判断が求められます。

鍵となるのはデジタル・トランスフォーメーションです。

当社は半世紀の間培ってきた、上流から下流までの一気通貫のものづくりの技術をより高次にデジタル・トランスフォーメーションと融合させ、圧倒的な高効率、高品質なグローバル生産基盤を構築してまいります。



2つ目の柱は、サーマルソリューション事業の拡大です。

これからは、地球環境への負荷を、本格的に低減していかなくてはなりません。

当社は、最適な熱輸送設計と品質保証力により、環境負荷の低減に取り組んでまいります。

すでに各社が量産、開発しております、ハイブリッド車、EVといった低排出ガス車やゼロエミッション車用のコンポーネント製品や、スーパーコンピュータ「富岳」に採用された当社の冷却配管システムを応用し、高い冷却性能を必要とするハイパフォーマンスコンピュータ分野への拡販を進めてまいります。



3つ目の柱は、次世代コア事業の創出です。

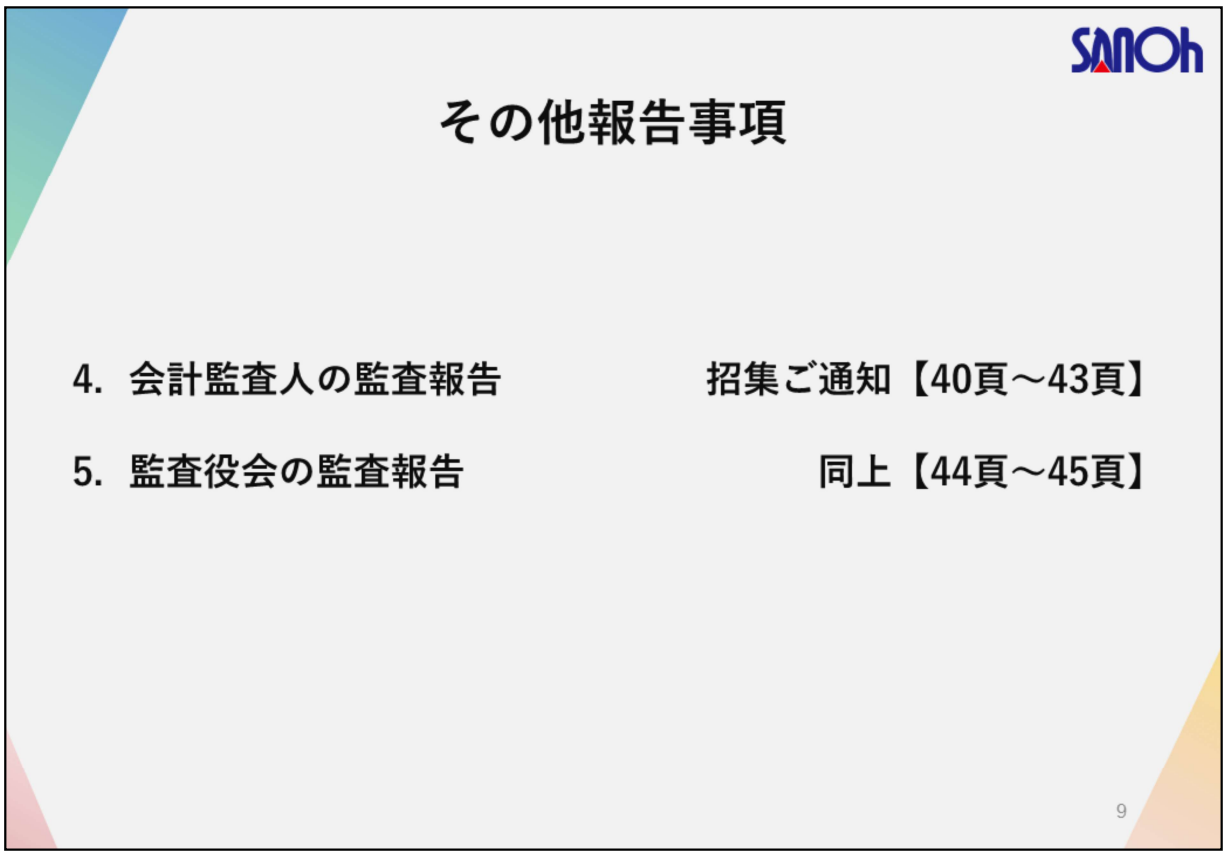
長年グループ内で培った設備製造と工程設計の経験を生かし、市場のニーズに合わせた設備外販を通じて新たなソリューション事業として育成していく他、引き続き多様な事業領域において研究開発活動も推進します。

熱エネルギー変換材料の開発、全固体電池や蓄電周辺コンポーネント製品の開発も継続して取り組んでまいります。

さらに、地域の活性化を担うべく地域創生事業や、ものづくりを通して未来に役立つ専門知識を教育する事業も新事業テーマとして取り組んでまいります。

将来起こりうるあらゆるリスクを想定し、企業理念である「自発・自立・迅速」を更に強化することで、アフター・コロナの世界における新たな社会的ニーズを開拓し、持続可能な成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。



なお、会計監査人および監査役会の監査報告につきましては、連結計算書類の監査結果を含め、招集ご通知40ページから45ページに記載のとおりでございます。

以上をもちまして、報告事項の報告を終了いたします。


SANOh